

令和7年度 自己評価書及び学校関係者評価書

1 学校教育目標

輝く瞳で大きな夢を ○すすんでまなぶ子 ○なかよくたすけあう子 ○げんきてたくましい子

2 本年度の重点目標

みんなでみんなの「たのしい」を創造する

3 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学び力の育成	子どもたちが積極的に学習や活動に向かえるよう授業改善が行われる中で、子どもたちの学ぶ力が育成されている。	B	「分かる・できる・楽しい授業」を日常の中で実践することを目指した。子どもの学びに向かう主体性を育むために、「学びのコントローラー」を子どもにもたせる意識で授業づくりを検討し、教師のかかわり方を工夫してきた。子どもが主体性を発揮する「子どもに『委ねる』学習」については、子どもに身に付けさせたい力を明確にして授業改善を続けていく。	A	B
	学習規律や学習習慣が定着し、学びを充実させることができています。	B	「あいの里西スタンダード」を基に、学習規律に関して学校全体で統一した指導を行っている。子どもの主体的な取組につなげるためには、折に触れてスタンダードを意識させるなどのかかわりが必要である。学習習慣の定着を図るため、家庭学習(放課後の過ごし方)の計画を立てている。自分の生活を自分で把握することで、放課後の時間を有意義に過ごしている子が増えてきている。ただ、未定着の児童もいるので、家庭との連携を密にし、学校から保護者への発信に力を入れたい。	B	A
	少人数指導や習熟度別指導、専科指導など、指導法の工夫改善に努め、個に応じた指導が充実している。	A	4～6年生の外国語活動や外国語では、専科教師の専門性を生かした授業を日常的に行うことができた。また、体育科の授業では、子どもの体力向上につながるよう複数教員による指導を行った。今後もどの子にとっても「分かる・できる・楽しい」授業に向けて工夫改善に努める。	A	B
豊かな心の育成	自分から進んで元気に挨拶しようとする意識の向上が図られている。	B	「I eye あいさつ」を合言葉にした挨拶奨励活動は、子どもと一緒に挨拶を広げることを重点とし、「いつでも」「誰にでも」進んで挨拶ができるよう、指導を継続している。委員会の児童主催であいさつ運動を行うなど、子どもが進んで挨拶をするきっかけ作りを今後も続けていく。	A	A
	いじめや不登校の未然防止や問題の早期発見に努め、迅速に対応できている。	B	友達との関係づくりが難しい子どもへの支援や保護者との面談、外部機関との連携など、担任以外の職員も含めた組織的な対応を行ってきた。組織的な対応することを心掛け、迅速な対応を行うことができた。いじめ防止対策委員会と校内学びの支援委員会を定期的に開催し、児童情報の共有に努めている。	A	A
	学校行事や児童の活動では、子どもたちが楽しく活動できるよう工夫が図られている。	A	「ふれあい活動」(二学年交流)は3年目となり、遠足や読書、縄跳び運動、遊びなどを行った。子どもたちの中にふれあい活動の意義が定着し、相手意識をもった、適切なかかわりができている。「ふれあい活動」を通して、日常的に休み時間に一緒に遊んだり、他の学年の子どもが困っていると手を差し伸べたりする姿が見られるようになった。	A	A
健やかな体の育成	子どもの体力の実態を捉え、体育科の学習の中で継続的に取り組む運動や縄跳び運動の全校的な取組を工夫することで、運動習慣の定着、日常化が図られている。	A	子どもの意欲と継続的な取組に結び付ける「なわの日」の取組を継続して行った。体育の時間では、種目に応じた準備運動や練習を行ったり、みんなが楽しめるようゲームのルールを考えたりするなど、楽しく運動に取り組める工夫を行ってきた。授業以外で子どもの運動機会を創出する取組「ツナガル広場」では、年間を通して実施することで、運動遊びに親しむ子どもが増えた。今後も、体育科授業の充実や運動習慣が定着、日常化できるような取組を工夫していきたい。	A	A
	子どもの生活習慣の実態を捉え、食育や健康、命の大切さに関心をもって生活できるよう工夫が図られている。	B	給食便りや保健便りを活用したり、年間を通じた学級活動で指導を行ったりした。また、命を大切にす月間(9月)には、道徳指導や読み聞かせ活動を行い、命の大切さについて指導を行った。指導後、子どもの思いや考えを書いたカードを掲示して、全校児童や保護者と共有することができた。学校での指導と家庭での生活が関連づくように、指導内容を工夫していきたい。	A	A

子どもの発達への支援	子どもを学校全体で見守り、子ども一人一人の教育的ニーズに対応することができる。	B	困りのある子どもについて即時的な情報共有を行った。特別支援教育コーディネーターを中心に、学びのサポーター、相談支援パートナー、スクールカウンセラー、外部機関と連携し、全ての子どもを全職員で温かく指導している。必要に応じて、ケース会議を開催し、子どもが安心して学校生活を送れるようにしてきた。また、子どもからのサインを把握する「シャボテンログ」の取組により、子どもからのサインを学校全体で把握することができる。今後も全ての子どもたちが参加できるよう、「合理的配慮」による学習活動の充実やいじめの未然防止・早期発見対応に努め、学校と家庭が連携しながら子どもたちの状況に応じた支援を行っていきたい。	A	A
開かれた学校	学習参観懇談・お便り・HP等を通して、学校の様子が家庭や地域に分かりやすく伝えられたり、様々な機会を通して、学校と家庭や地域との信頼関係づくりが図られたりしている。	B	学校ホームページを活用し学校の情報や子どもの様子をより早く分かりやすく伝えている。ホームページでの発信を担当から行うことで、より日常的な子どもの育ちを発信することに努めている。 参観懇談会（年3回）、教育相談（2回）、運動会、学習発表会と、2期4節で教育活動の公開を設定している。10月に学校公開の参観を行ったことで、通常の1時間の参観では見られない、より日常に近い子どもたちの姿を見ていただくことができた。 今年度より、前期の通知表を改定し、子どもの成長の様子を書いて伝える形式から、話して伝える形式にした。具体的な評価物を用いて、より具体的に学校生活の様子を伝えることができた。	A	A
安心安全	緊急時の学校全体の防災・防犯体制が適切に整備されている。	B	幼稚園、保育園、中学校との連携が、進学への不安解消などに役立っているほか、近隣小学校との連携によって行事やカリキュラムの充実に結び付いている。近隣園との交流も計画的に行うことができた。コミュニティスクール導入にあたり、人的、物的資源のより一層の活用により、「本物の体験」ができる機会を検討していきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<p>【学ぶ力】 ○2回の授業参観を通じて、落ち着いて学習に取り組んでいることが見取れ、子どもたちの成長を感じた。特に、1年生は入学のころから比べて、たくましくなった。5年生の成長を大きく感じ、自分たちで課題を見つけて取り組んでいることが感じられた。 ○子どもたちの多様性にも着目してほしい。 ○あいの里西スタンダードを基準として、どの子にも学習習慣を定着させて、主体的な学びに向かわせる手立てを考えて教育を推進していることが良い。学んだことに喜びを感じ、更に探究する学びに進めるようになっていくとよい。 ○子どもに『委ねる』場面について、子どもたちは自分（たち）で考え、課題解決していることが分かった。また、事例を基にした『委ねる』モデルのようなものがあると、もっと積極的に学びに向かう子が増えると思う。 ○児童に学びを『委ねる』までのプロセスを考え実践することで、定着が進んでいると感じた。学年の発達段階も考えられていると思った。</p> <p>【豊かな心】 ○ふれあい活動を通して、他者を意識して自分のしたい行動、なりたい自分に近づけるように支援していると感じる。良き伝統になるとよい。 ○挨拶、相手意識をもつなど、経験を積み、継続することが大切。また、フィードバックの機会があることで自己を見つめ直すことができる。 ○登校の様子から、一人で来る子が少なく、仲間意識の高さや仲の良さを感じる。また、春から比べて挨拶のトーンが優しくなり、適切な挨拶ができていると感じる。 ○コミュニケーションのいちばんは挨拶。人と人をつなぐ第一歩であるが、防犯意識の視点から、難しさも感じる。</p> <p>【健やかな体】 ○体を動かすことについて、子どもが「次もやってみたい!」と思ったり、やりながらおもしろさを考えたりするよさあると思った。子どもが楽しく取り組める体育の授業を今後も継続してほしい。 ○食の大切さを教えるのに、農家とタイアップした授業などあいの里の立地を活用した取組ができるのではないかな。</p> <p>【開かれた学校】 ○子ども110番の家について、町内会にも声をかけて、町中で子どもを守る取組を。 ○あいの里西小は地域の避難場所になっている。地域の防災訓練を子ども参加型にするなど、地域と学校のタイアップする取組を模索したい。 ○お便りについて、ICT化が進んで便利になっている一方、子どもにお便りの内容が十分伝わっていないのではないかな、という声が聞かれる。紙で配っていた時は短時間でもお便りの内容について触れる機会があった。ICT、紙面それぞれによさがあるので、より効果的な方法で伝える工夫をするとよい。 ○コミュニティスクールの導入により、地域の人と人とのつながりがより一層強まって、地域力を向上させ、価値創造に向かうことを願う。</p> <p>【その他】 ○各評価項目とそれぞれの対策を見ると、先生も子どもも忙しすぎないかと思ってしまう。学校にも息抜きできる時間と場所が必要ではないかと思う。 ○自己評価に、学校の先生方の子どもの成長に向けた愛情が見て取れる。 ○遊びから学ぶことも必要と考える。</p>				